

2011年9月期第1四半期連結決算

2011年2月4日

株式会社三菱総合研究所

1. 2011年9月期第1四半期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

第1四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2010年9月期 1Q(10~12月)	2011年9月期 1Q(10~12月)	増減額	増減率
売上高	12,128	11,866	△261	△2.2%
売上原価	9,937	9,982	+44	+0.5%
売上総利益	2,191	1,884	△306	△14.0%
販管費	2,549	2,865	+315	+12.4%
営業利益(△損失)	△358	△980	△622	—
営業利益率	△3.0%	△8.3%	△5.3P	

第1四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2010年9月期 1Q(10~12月)	2011年9月期 1Q(10~12月)	増減額	備考
営業利益(△損失)	△358	△980	△622	
営業外損益	50	224	+174	持分法による投資利益 (負ののれん発生)
経常利益(△損失)	△307	△755	△448	
特別損益	1	△196	△198	資産除去債務影響額 投資有価証券評価損
税金等調整前四半期純利益(△損失)	△306	△952	△646	
法人税等	44	△344	△389	税金等調整前損失の 拡大のため
少数株主利益	41	29	△11	
四半期純利益(△損失)	△392	△637	△245	
1株当たり四半期純損失(円)*	△23.88	△38.80	△14.92	

*1株当たり四半期純損失は期中平均株式数により算出： 2010年9月期1Q・2011年9月期1Q 16,424千株

セグメント別業績 <前年同期比>

(百万円)

		2010年9月期 1Q(10~12月)	2011年9月期 1Q(10~12月)	増減額	増減率
シンクタンク ・コンサルティング事業	売上高	1,017	962	△55	△5.4%
	営業利益	△624	△910	△285	—
ITソリューション事業	売上高	11,111	10,904	△206	△1.9%
	営業利益	261	△77	△338	—

2011年9月期第1四半期のまとめ

第1四半期は、営業損失9.8億円、四半期純損失6.4億円

- 営業損失自体は、主にシンクタンク・コンサルティング事業の季節変動が主因
- 前年同期比での損失拡大は、本社移転及び事業構造・業務プロセス改革に伴う経費(含む一時費用)増加が主因
- 厳しい環境、一部案件の翌四半期繰越により、売上・利益率も苦戦気味

業績見通し： 今後の挽回を見込み、現時点では変更なし

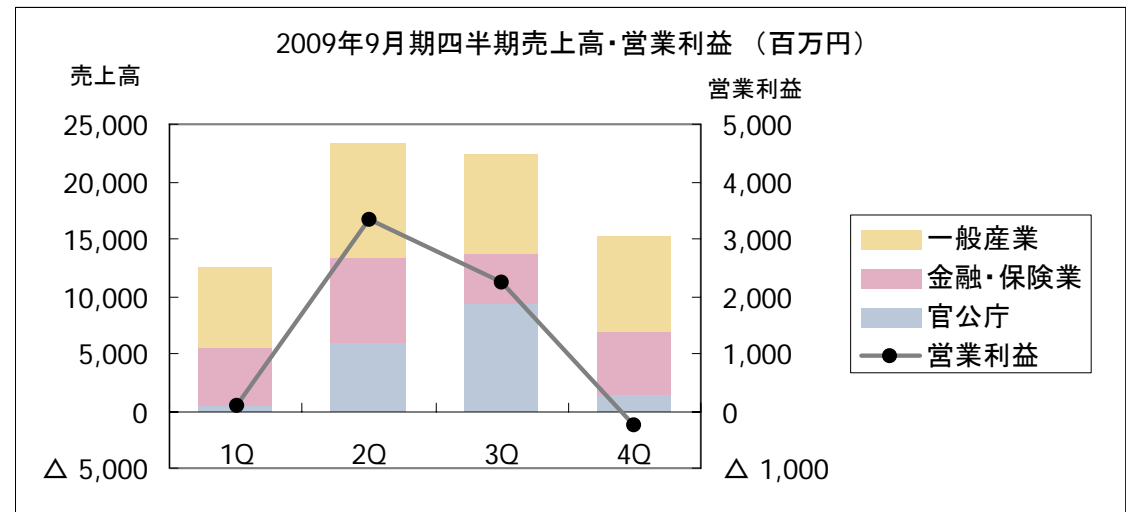
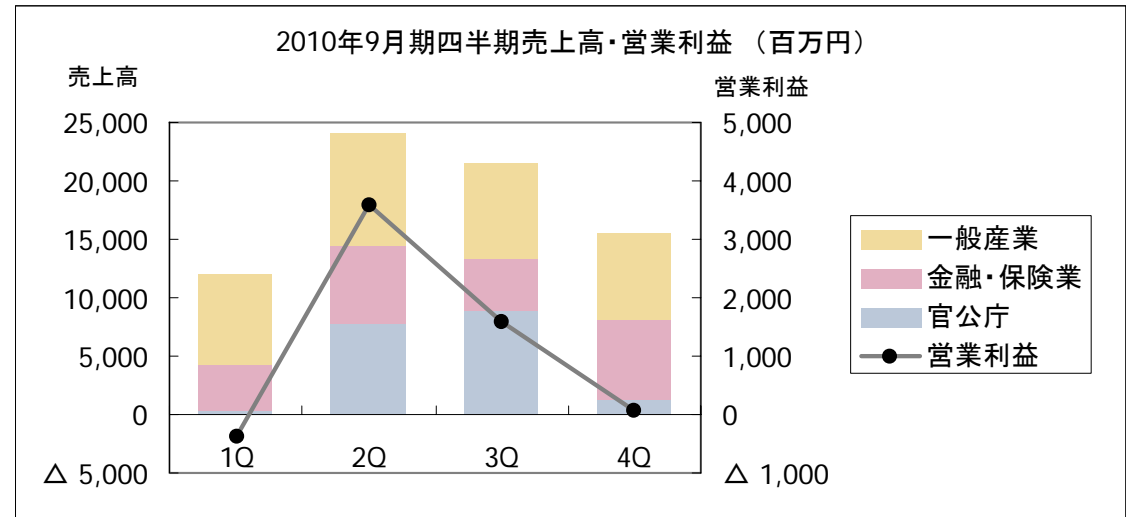
- シンクタンク・コンサルティング事業は、季節変動により、第2四半期以降挽回
- 受注は概ね計画通り進捗し、通期売上予想に対し、8割弱を確保済み^(*)
- 一時費用は今後解消するほか、第3四半期以降には改革効果も徐々に顕現

* 既売上＋受注残高のうち当期売上予定分

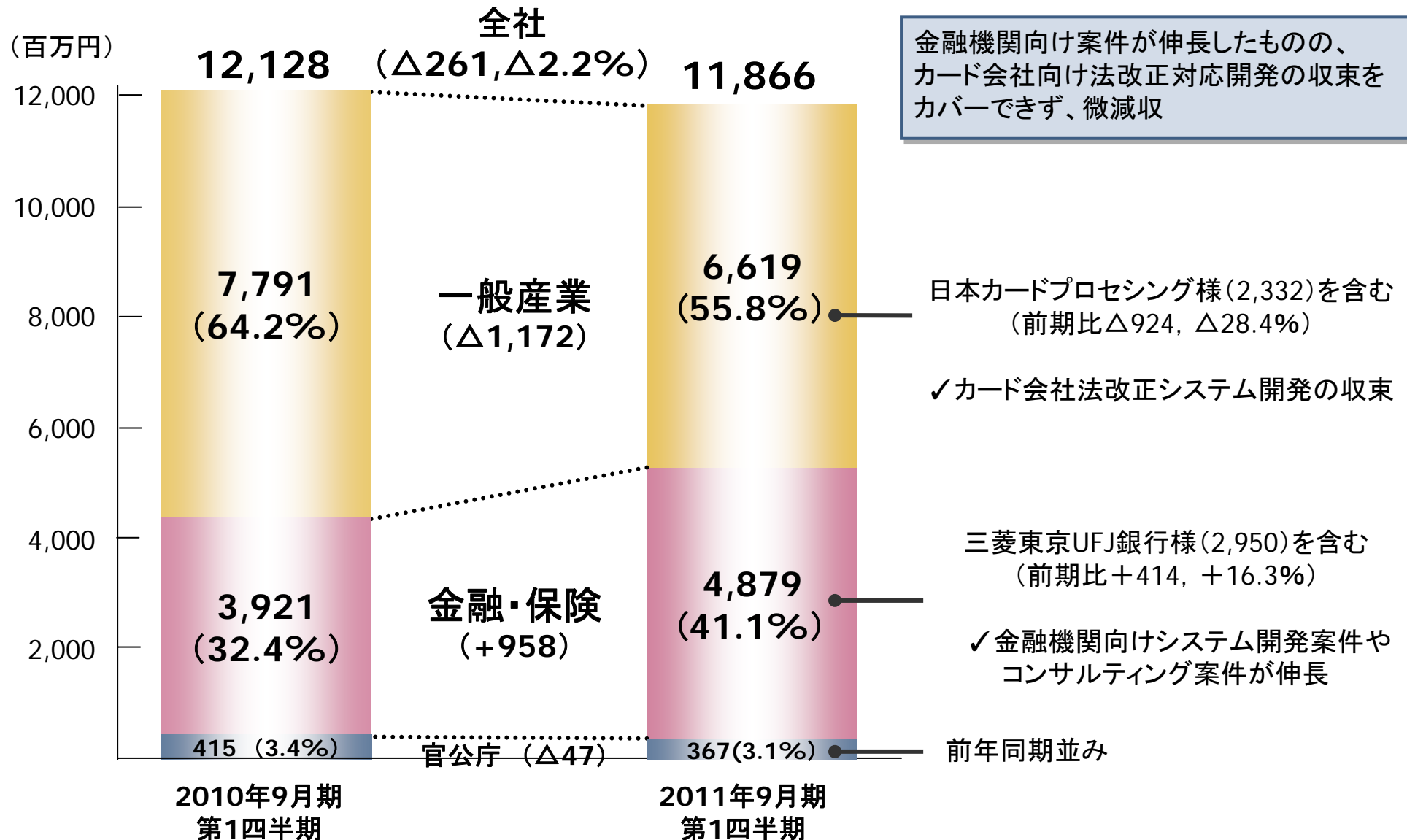
【補足】業績の季節変動について

季節変動の要因

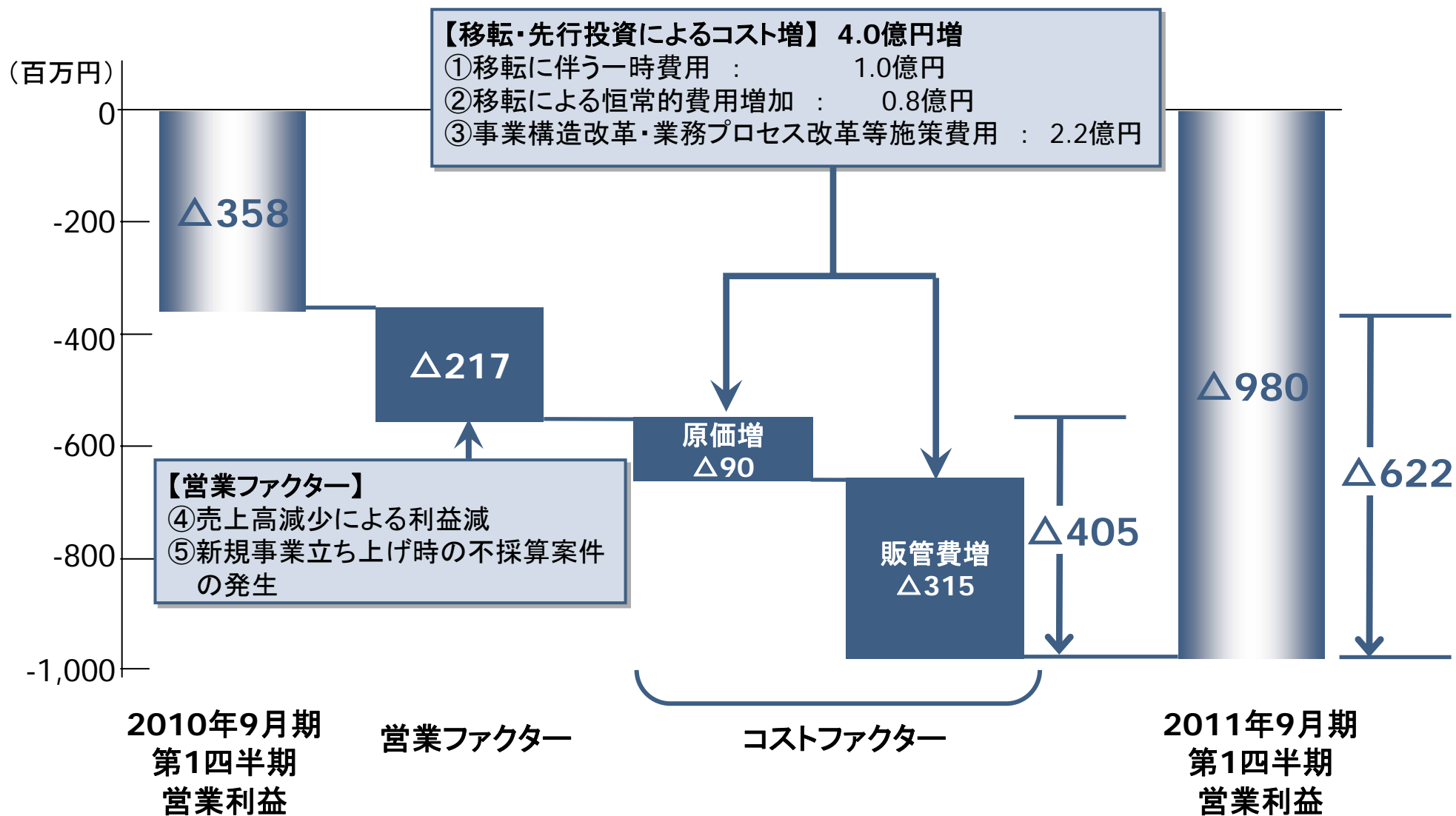
- シンクタンク・コンサルティング事業の主要顧客である官公庁向けの調査研究案件の売上が毎年3月から4月に集中する。
- そのため、売上の多い2Qと3Qの営業利益が1Qと4Qに比べて高くなる傾向がある。
- 特に、2Qは稼働率も高いため、年間を通して最も営業利益が高くなる傾向がある。
- 一方、販管費等の経費は毎四半期ほぼ均等に発生するため、売上高の小さい1Qと4Qは営業赤字となることがある。



顧客業種別売上高 <前年同期比>



営業利益の変動要因 <前年同期比>



1. 2011年9月期第1四半期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

2011年9月期連結業績予想

前回(11/8)予想から変更なし

通期売上予想に対し、8割弱の受注を確保済み^(*1)

第3四半期以降には改革効果も徐々に現れ、経費増をカバーして前期比増益を見込む(前回11/8予想から変更なし)

(百万円)

	2010年9月期 実績	2011年9月期 予想	増減額	増減率
売上高	73,323	75,200	1,877	2.6%
営業利益	4,875	5,080	205	4.2%
営業利益率	6.6%	6.8%	0.1P	
経常利益	5,030	5,150	120	2.4%
当期純利益	2,516	2,670	154	6.1%
1株当たり当期純利益 ^(*2)	153.22	162.57	9.35	6.1%

*1 既売上＋受注残高のうち当期売上予定分

*2 1株当たり当期純利益は期中平均株式数により算出：2010年9月期・2011年9月期 16,424千株

新規・成長分野への取り組み（事業構造改革）

	主な重点事業	第1四半期の主な取り組み
社会	未来社会提言・実現型事業	プラチナ社会研究会 233団体(企業131、自治体65、大学・非営利37)、15分科会 「松本モデル」輝くか～医療・健康で産業創出「プラチナ社会」構想 (2010年12月6日 信濃毎日新聞掲載)
	自治体クラウド(観光統計等)	観光政策立案・評価支援ツール「観光統計ぷらっとふおーむ」 クラウドサービス 提供開始
金融 機関	住宅ローン信用リスク管理	着実な継続及び横展開
	コスト削減支援	実績を通じたノウハウ蓄積、横展開
一般 企業	会社合併後の統合支援	地銀実績から他産業への展開(製造業、建設業で受注実績有り)
	インフラ輸出支援	インド・グジャラート州環境配慮型都市開発 コンソーシアム(三菱重工、電機、商事、電源開発)事務局支援業務 「環境都市輸出」へ1300億円(2011年1月6日 日本経済新聞掲載) 政府調査案件 「スマートインフラ・システム輸出促進に係る調査研究」 「ブラジル・ワイヤレス通信活用新交通情報基盤システムモデル事業」
	BPO(人事給与)	三菱東京UFJ銀行様ブランドでの給与計算サービスの販売 病院や運輸関連企業等への展開(受注実績有り)
	病院・学校経営支援ソリューション	病院経営システム構築・運営業務受注 オプト・ジャパン子会社化

1. 2010年9月期決算

2. 2011年9月期業績見通し

3. 参考資料

プレスリリース

2010年12月22日



三菱総研DCS、セキュアプリント・クラウドサービスを提供

三菱総研DCSは、株式会社スカイコムが提供するセキュアプリントシステム『ザ関所』をベースとしたサービス、セキュアプリント・クラウドサービスの提供を2011年1月より開始。

印刷物に関する情報漏えい事故の防止とコスト削減は、あらゆる企業の課題となっている。これに対し、DCSセキュアプリント・クラウドサービスは、近年マルチベンダ認証印刷市場で圧倒的なシェアを有するスカイコムのセキュアプリント・ソリューション「ザ関所」を、クラウド型サービスとして提供することで、企業内の印刷物に関するセキュリティ強化とコスト削減を同時に実現することを可能とし、さらに既存のプリンタを入れ替えることなく低コストで利用することを可能にしたサービス。

今後は、本サービスをより広範囲に適用するために、スマートフォンなどの印刷機能を持たないデバイスからの印刷サポート機能を開発中。

さらに、セキュアプリント技術をベースとして、仮想デスクトップサービスなどとの連携によるOA機能のフルクラウドサービス化や、さまざまな事業者・サービス提供者との連携による安全・便利な新サービスの創出など、サービスの拡充に取り組んでいます。

プレスリリース

2010年12月21日



観光政策立案・評価支援ツール、 「観光統計ぷらっとふおーむ」をクラウドサービスで提供

三菱総合研究所では、観光統計を活用するためのクラウドサービス「観光統計ぷらっとふおーむ」の提供を開始。

「観光統計ぷらっとふおーむ」は、これまで都道府県ごとに異なる方法で作成していた観光統計が全国共通で作成されるようになったことを受け、全国横並びでデータを表示し比較・分析が容易に行えるように開発したツール。都道府県観光入込客統計で作成される、全国2万の観光地ごとの特性や月別の入込客数データ、四半期ごとの都道府県別の観光入込客数や観光消費額を利用者で共有し、高度な比較・分析を容易に実現するクラウドサービス。観光庁が進めている観光統計の整備にも対応している。

本ツールを利用することで、統計を活用した科学的な観光施策の立案・評価が可能になります。

プレスリリース

2010年9月7日



「生活需要将来予測モデル」を開発

三菱総合研究所では、首都圏における生活関連マーケットの将来動向を予測する「生活需要将来予測モデル」を独自に開発。

各地域から生まれる生活に関連した消費需要(以下、「生活需要」)は、その地域の人口や世帯のボリュームだけでなく、高齢化の度合や、単身世帯の多寡といった質的な人口・世帯特性や、地域の所得水準などとも関係がある。

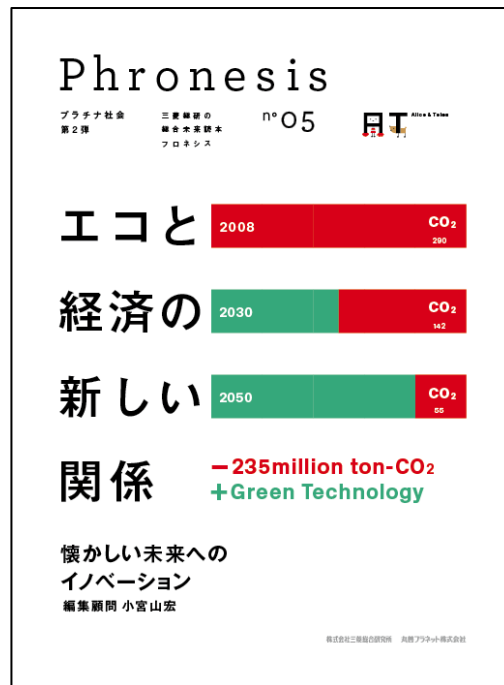
当社が開発した「生活需要将来予測モデル」により、これらの要因を加味した上で、首都圏における生活関連マーケットの「未来」を、きめ細かいエリア単位での予測が可能となる。

流通業の出店戦略コンサルティングでは高い評価をいただいております。現在はB to C企業を中心に、幅広い業種に事業を展開中。

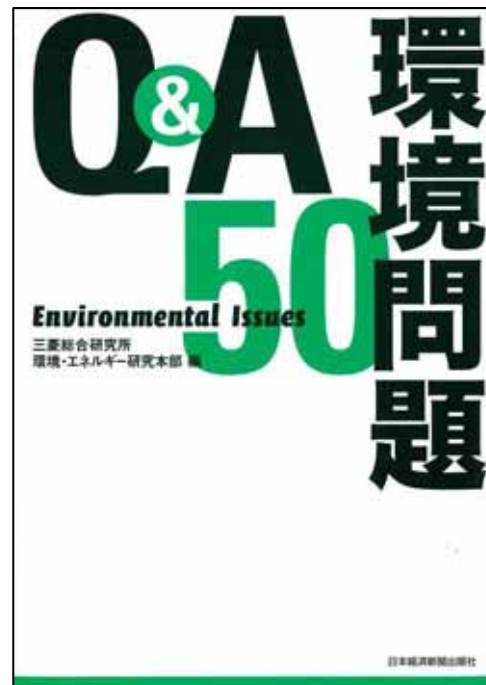
当社では「生活需要将来予測モデル」を核として、客観的・科学的なマーケット分析・コンサルティングを通じ、エリアマーケティングの高度化を支援してまいります。

出版物

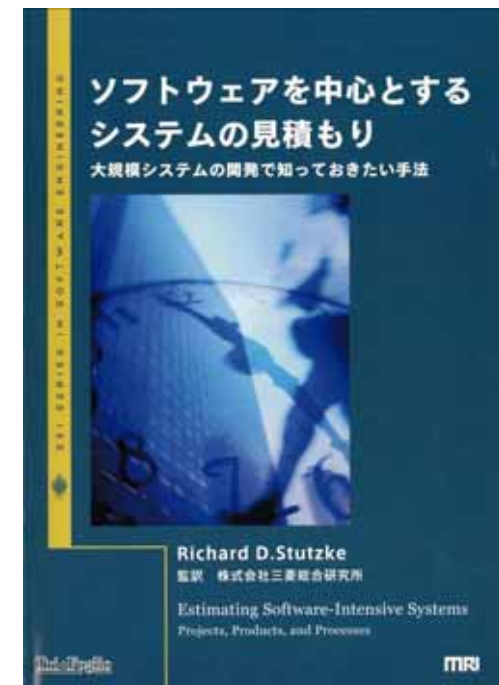
三菱総研の総合未来読本



書籍名 『Phronesis』 シリーズ第5弾
 編著者 三菱総合研究所
 発行日 2011年1月20日
 発行 丸善プラネット



書籍名 『Q&A 環境問題50』
 著者 環境・エネルギー研究本部
 発行日 2010年10月25日
 発行 日本経済新聞出版社



書籍名 『ソフトウェアを中心とするシステム見積もり』
 著者 Richard D. Stutzke
 監訳 三菱総合研究所
 発行日 2010年10月30日
 発行 トリフォリオ

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

株式会社三菱総合研究所
広報・IR部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>